

## 令和6年度北区立西浮間小学校 自己評価報告書

北区立西浮間小学校長 小島 みつる

## I 自己評価の結果と分析

当てはまる＝4ポイント だいたい当てはまる＝3ポイント あまり当てはまらない＝2ポイント 当てはまらない＝1ポイント  
 数値は平均 3ポイント以上を肯定的評価、3.6ポイント以上を目標達成、3ポイント未満は課題有り と捉える。  
 回答者数 学校教職員…35人 保護者…485人（対象数の70.5%） 児童…688人（全年齢）

| A  | いじめの芽を見逃さない いじめに強い学校づくり                        | 教員  | 児童  | 保護者 |
|----|------------------------------------------------|-----|-----|-----|
| 1  | 児童は、毎日の学校生活を楽しんでいる。                            | 3.4 | 3.4 | 3.5 |
| 2  | 児童は、学級学校内でよい人間関係がつくられている。                      | 3.1 | 3.7 | 3.6 |
| 3  | 児童は、いじめはぜったいに許されないことだということをよくわかって、正しい行動をしている。  | 3.7 | 3.6 | 3.3 |
| 4  | 児童は、相手の立場や気持ちを考えて、思いやりのある行動をしている。              | 2.9 | 3.6 | 3.2 |
| 5  | 児童は、学級ががんばり目標を意識し、みんなと協力して達成できるように努力している。      | 3.3 | 3.5 |     |
| 6  | 学校は児童相互のトラブルや悩みに対して、相談に乗ったり必要な指導をしたりしている。      | 3.5 | 3.5 | 3.3 |
| B  | 確かな学力の向上                                       | 教員  | 児童  | 保護者 |
| 7  | 児童は、自分からすすんで意欲的に学習に取り組んでいる。                    | 3.1 | 3.3 | 3.2 |
| 8  | 児童は、授業中の姿勢、話の聞き方、挨拶・返事、用具等、学習の約束を守っている。（授業規律）  | 2.9 | 3.4 | 3.2 |
| 9  | 学校は、個々の子供に応じた学習指導（算数少人数指導を含む）を行っている。           | 3.3 | 3.0 | 3.3 |
| 10 | 学校は、楽しく分かりやすい授業を行っている。                         | 3.1 | 3.2 | 3.3 |
| 11 | 学校は、子供が体験したり、自分で解決したりする授業を積極的に行っている。           | 3.2 | 3.2 | 3.3 |
| 12 | 児童は、学年相応の計算力や読解力・漢字力が身に付いてきている。                | 2.6 | 3.4 | 3.2 |
| 13 | 児童は、学校や図書館などから本を借りるなどして、たくさんの本を読んだ。            | 3.1 | 3.1 | 2.5 |
| 14 | 学校は、きたコンを活用した授業や家庭学習を積極的に実践した。                 | 3.1 | 3.7 | 2.8 |
| C  | 豊かな人間力の育成                                      | 教員  | 児童  | 保護者 |
| 15 | 児童は、学校教育目標「自ら育つ子」だと知っており、目指す姿を意識している。          | 3.3 | 3.1 | 3.3 |
| 16 | 児童は、自分から挨拶をしたり、正しい言葉遣いを意識して話したりできている。          | 2.9 | 3.4 | 3.0 |
| 17 | 異学年フレンド班活動は、児童の思いやりの心やコミュニケーション能力を育てている。       | 3.1 | 3.3 | 3.3 |
| 18 | 学校は、多様な学校行事を効果的に行い、児童は意欲的に取り組んでいる。             | 3.5 | 3.6 | 3.6 |
| 19 | さくら草一人一鉢栽培の活動は、児童の地域や自然への愛着を深めている。             | 2.9 | 3.7 | 3.3 |
| D  | 健全な体力と気力の育成                                    | 教員  | 児童  | 保護者 |
| 20 | 児童は、「西浮っ子の約束」や学校のきまりを守って生活している。                | 2.9 | 3.6 | 3.3 |
| 21 | 児童は、身の回りの整理整頓をする習慣が身に付いてきている。                  | 2.6 | 3.3 | 2.4 |
| 22 | 学校は、体育的な活動、保健や給食指導などを通して、子供の健康づくりを進めている。       | 3.3 | 3.3 | 3.4 |
| 23 | 学校は、避難訓練や各種安全教室を通して子供が安全に生活できるよう指導している。        | 3.4 | 3.8 | 3.5 |
| 24 | 学校は、学校施設や学習環境の安全、整理整頓や美化に努めている。                | 3.1 | 3.4 | 3.4 |
| E  | 家庭地域連携                                         | 教員  | 児童  | 保護者 |
| 25 | 学校は、学校公開や授業参観、各行事などを通して、開かれた学校づくりを進めている。       | 3.4 |     | 3.6 |
| 26 | 学校は、各種便り、保護者会や個別懇談を通じて、子供の様子や学校の取り組みを適切に伝えている。 | 3.4 |     | 3.4 |

## 【分析】

◇全体として、児童は素直で子供らしい自己肯定感をもち、友達と仲良く楽しく学校に来ている様子が窺える。しかし、教員や保護者の客観的な数値との解離が大きく、児童の自己理解や内省する力の弱さも窺える。

◇教員の自己評価が低いのは、単に実践しているかではなく結果を出しているかを問うているので、児童・保護者よりも自己評価が低くなりがちである。しかし、取組状況のみを聞いている設問で4.0になっていない事は大きな課題である。

## A「いじめの芽を見逃さない いじめに強い学校づくり」 項目1～5

- ▲**1**「学校が楽しい」に否定的評価だった児童数とその理由 1年：7人 2年：6人 3年：8人  
4年：15人 5年：22人 6年：15人 合計：73人（昨年度より13名増）  
理由 ①勉強が嫌い・難しい ②学校行くのが面倒・寝ていたい・ゲームをしたい ③友達等人間関係
- 3**「いじめの未然防止・早期指導」について、児童・保護者・教員ともに評価が上昇している。特に児童・教員の高評価を維持している。「いじめは許されないこと」に対する姿勢が全校朝会を始めとして適時繰り返し指導し、児童にもよく理解されている回答である。
- ▲**4**「相手の気持ちを考えて、思いやりのある行動をしている」については、児童の評価3.6に比べ、教員の評価2.9、保護者の評価3.2が低くなっている。児童の内省力が十分育っていないことの現われとも言える。
- 5**「学級がんばり目標」について、学級では他者との合意形成や頑張り目標と振り返りの対の指導を繰り返し行い、児童によりよい人間関係を創ろうとする意識が育っていると言える。今年度、特別活動を核にした教育活動を行ってきた成果である。

## B「確かな学力の向上」 項目6～13

- ▲**8****12** 教員と児童の評価の乖離が大きい。児童のできていることとそうで無いことをしっかり理解させ、確実に指導していく必要がある。
- 9**「個々に応じた学習指導」では、算数少人数教員2名が定着し、より個々に応じた指導が充実したこと、2年生から習熟度学習を行い、さらに学力パワーアップ講師や非常勤教員を配置し指導の充実を図ったことが肯定的な評価を得た要因だと思われる。
- ▲**10****11****12**「楽しく分かりやすい」「体験型課題解決学習」「学年相応の学力の定着」について、定着度は教員の評価が実態であると思われる。  
今年度は児童にどの教科が一番好きかを質問した。  
＜好きな順＞ 1年 図：体：生…**国**：道 2年 図：生：体…**国**：道 3年 図：体：英…**国**：社  
4年 図：学活：体…**国**：社 5年 体：学：図…**国**：社 6年 音：体：学…算：**国**  
好きな教科には活動を伴うことが多い教科であり、好きではない教科には座学を中心とした教科が多い。児童にとっての「児童が主体、楽しく分かりやすい授業」のヒントがある。学ぶ楽しさを味あわせながら基礎的基本的な学力が身につくような授業改善を進めていく必要がある。さらに、国語については、語彙力や資料活用等、課題が顕著に表れているため、手立てを講じて言語能力の向上に努めていく必要がある。
- ▲**13**「読書習慣」については毎年の課題である。しかし、外部ボランティア・教員・放送委員児童と様々な読み聞かせの実施、授業時間内の図書館利用の時間確保等が意識され、教員の評価が3点を越えたことは成果である。保護者は家では児童が本を読む姿を見かけていないことに困るのではないかとと思われる。家庭を巻き込んだ読書活動を工夫していく必要がある。
- 14**「きたコンの活用」については、児童は楽しく意欲的に学習に活用している様子がうかがえる。家庭学習の活用には、保護者の結果からまだ十分に活用できているとは言えない現状があるが、「ただつかえば良い」ではなく、教員の自己評価向上につながる、「真に学力向上・定着に資する活用」を開発・工夫改善・充実させていきたい。

## C「豊かな人間力の育成」 項目14～19

- 15**「学校教育目標」について、児童、保護者に学校教育目標を周知できていることは大きな成果である。日々の児童の発言に「自ら育つ」という言葉が出てくることがとても多くなっている。
- ▲**15**「挨拶、言葉遣い」について、教員、保護者の評価が児童の実態であると思われる。会話のやりとりを続ける意識や相手意識をもてるよう授業だけでなく、日常生活とも連動させて指導していく。

○18「学校行事」については、三者ともに肯定的評価が高くなっている。経営方針として行事を大切にし、学校全体で主体的に取り組む姿勢を付けさせるための「育てる力」を意識し、行事ごとに「めあて」と「振り返り」の指導を確実に実施できた成果である。また家庭にも何に向けて頑張っているのか、学校からの発信や子供を通して伝わっていると考えられる。

▲○19「さくら草栽培」今年度は例年以上の児童が自分の鉢に触れる機会を増やしたことが児童の高評価につながり、教員はこの作業により雑草と共に芽を摘んでしまった失敗が評価の低さになったと思われる。

#### **D「健康な体力と気力の育成」** 項目20～24

▲○20「学校のきまりを守る」については、児童と教員評価の乖離が大きい。児童にとって、知っている約束やきまりについて守ったかどうか回答していると思われる。教員は「当然分っているだろう」ということでも実際には児童が認識できていないルールやマナーがあり、それらを守れていないことが評価の低さに表れていると思われる。集団が気持ちよく安全に生活するためにきまりはあるのであり、主体的に判断できる児童に育て欲しいと願う。「にしよう子の約束」の指導徹底を図るため、生活指導上の課題の即時共有、学年共通の指導を適宜行った。また、約束が統一に指導できていないことについて教員間で適宜（5回）確認し、教員の意識化を図っている。引き続き、共通の指導を実施できる体制作りに努める。

▲21「身の回りの整理整頓」も教員・保護者と児童との評価の乖離が大きい。児童の全体的な実態からは、教員・保護者の低評価が妥当と言える。しかし、しっかりと整理整頓できている児童も少なくはないので、よい行動規範を広げていきたい。

○25「体育・保健・食育」については、体力向上委員会企画の体力向上チャレンジ週間や食育委員会作成の食育指導動画の活用が肯定的な評価に繋がったと考える。次年度以降も継続し、健康や体力向上の促進を図る。

○23 24「安全指導」「環境整備・美化」は、三者とも概ね高い肯定的回答となった。避難訓練は、基本の避難の仕方の他に児童自身が状況に応じて判断して避難する訓練を組み合わせで行っており、その取組みが児童の高評価に繋がったと思われる。また、校舎の築年数が経ち、修理が増えてきているので、安全点検の仕方を改善し、複数の目で点検を行う取組を行った。今後も安全な施設の管理に努め、児童の安心安全な生活を維持できるように努めていく。

#### **E「家庭地域連携」** 項目25、26

○25 26「開かれた学校づくり」については例年同様に肯定的な評価となった。今年度も土曜授業公開に加え、平日も年間で6日間の朝の会から帰りの会までの全日授業公開日を設定しており、保護者からは都合に合わせて参観できるのが良い、と好評価を得ている。各種便りについては保護者からの要望が増えてきたデジタル化を取り入れていきたい。

## **II 改善の方策**

◎ 児童がこれからも高い自己肯定感を持ち、仲間と仲良く楽しく学校生活が送れるよう、全教職員が全児童の担任という意識をもって教育活動を進めていく。

### **A「いじめの芽を見逃さない いじめに強い学校づくり」**

- ・いじめ未然防止に向けての取組を今後も継続する。更に自分自身の言動を振り返ったり、相手意識をもたせる指導の工夫をしたり、想像力を育成すると共に日常の児童の様子を複数の目で見取り、いじめに強い学校作りに努める。
- ・こども安心パートナーの記録とQU 結果分析を担当が真摯に受け止め、学級経営改善に活かす意識を醸成する。
- ・日々の指導について、学年・学級関係なく全児童に全教職員で対応する意識と実践力をさらに高める。
- ・学級目標を形骸化させず、学級目標が集団力を高め、いじめをしない人間関係を育てる大元になるような活用を図る。また、特別活動の充実を通して児童の「みんなで楽しいことを考え創り出す」という意識と実践力を高めるような指導の改善工夫を図る。
- ・不登校傾向 1 日目を見逃さず、組織的に適切な対応に当たる。養護・SC との連携、個別対応、丁寧な聞き取り、迅速な保護者対応等

- ・「学校が楽しい」に否定的評価の児童の理由に「面倒くさい」「朝起きたくない」という回答が増えてきている。子供たちの活力を支える生活基盤の課題を解決するには、家庭はもちろん他の教育機関や福祉機関との連携が必要である。関係機関との連携を図り、適切な判断や組織的対応力、実行力を付けていく。

## **B「確かな学力の向上」**

- ・学力の定着と学ぶ楽しさを両立させた授業を目指し、教材・教具の工夫や授業改善プランの活用を推し進める。
- ・算数では 2 年生以上で習熟度別学習を実施するとともに、パワーアップ講師とのチームティーチングの充実を図り、個に応じた指導の実践を推進する。
- ・体験活動の他、自ら課題を見つけ、解決する方法や計画を考える学習を取り入れ、主体的・対話的で深い学びが生まれるような授業改善を進めていく。
- ・ねらいを明確にして、「きたコンですべき活動」と「活字を読み取る活動」「きちんとノート等を書く活動」を見極め、「読む」「書く」ことを大切に扱う。特に低学年では学習の基礎基本を大切にする。
- ・国語部から、言語能力向上に資する提案を年度初めに行い、全校での実践を徹底する。
- ・学校図書館の活用の充実と共に、学習に合わせた並行読書や関連読書等の取組を広げ、読書活動の充実を図る。
- ・教員が日々行っている児童に寄り添った丁寧な指導は継続するが、児童が自分で考え行動すること、失敗を生かして工夫改善することなど児童自身が主体的に行動する力を育てるために、教員の意識改革を図っていく。(具
- ・家庭と連携して忘れ物をしないよう注意喚起させ、基礎的学力の定着の土台となる学習規律の確立を図っていく。

## **C「豊かな人間力の育成」**

- ・授業だけでなく、場面や相手に応じた言葉遣いについて日常生活とも連動させて指導していく。
- ・自己有用感を高めるため、学級目標を大切にした学級経営の充実を図っていく。また、「誰かの役に立てる」経験を増やすため、係活動、委員会活動、行事の係など全教員で児童の創意発想を生かした活動にしていく。
- ・行事で身に付く・伸びる力がとても大きな事を全教職員が共通認識し、次年度も行事のねらいや事前事後の指導を大切に、効果的な行事を実践していく。
- ・人は互いに支え合って生きていることを実感させるとともに、人に喜んでもらえる喜びを体感させる。
- ・さくら草の栽培に関わる学習計画について、さらに主体的な取組となるようカリキュラムの改善を図り、日常的にさくら草のお世話に取り組む機会が増えるよう指導の工夫をする。

## **D「健康な体力と気力の育成」**

- ・望ましい生活習慣が定着するまで繰り返し指導していく。
- ・整理整頓について、教師が率先して教室環境を整えるとともに、児童が改善意識をもって取り組めるよう日常的な学級指導・清掃指導等を継続していく。また、保護者との連携を図って指導を行っていく。
- ・避難訓練等が形骸化しないよう、より実際に近い場面を想定した設定となるようさらに改善を図る。また、児童が状況・情報について正しく理解し、自主判断し、自主避難できる力を付けることを目指す。

## **E「家庭地域連携」**

- ・土曜授業公開に加え、平日も年間で6日間の朝の会から帰りの会までの全日授業公開日を設定していく。
- ・各種通信について、それぞれの通信のねらいを再確認した上で、周知の徹底と学校の効率性を考慮しながらデジタル配信化を進めていく。

※PTA 活動に関する保護者の意見は、PTA 役員会に伝えていく。